

支援の場活動状況調査結果報告書

令和5年3月

香川県子どもの未来応援ネットワーク

1 調査概要

(1) 調査趣旨

香川県子どもの未来応援ネットワークは、子ども食堂などの地域の居場所づくりやその活動をサポートし、活動している人や団体をつなぎ、そのネットワークを広げていくことで、幅広い世代が交流し、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指して取組みを行っています。

そこで、香川県内の「支援の場」の活動状況や課題等を調査することで、「支援の場」同士の情報共有を行うとともに、今後のネットワーク活動について検討することを目的に、下記のとおり活動状況調査を実施しました。

(2) 調査実施主体 香川県子どもの未来応援ネットワーク(事務局:社会福祉法人香川県社会福祉協議会)

(3) 調査対象 香川県子どもの未来応援ネットワーク 支援の場登録団体 89か所

(4) 調査方法 インターネット調査

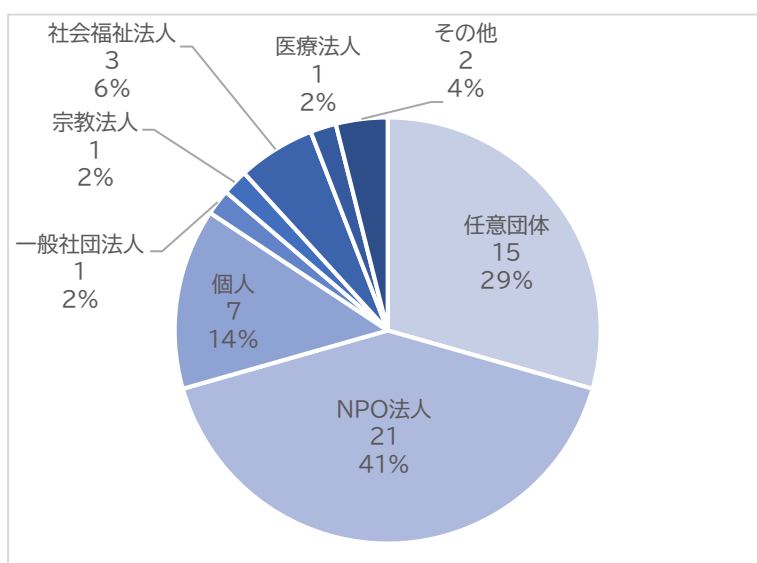
(5) 調査期間 令和4年12月16日(金)~12月26日(月)

(6) 回答数(回答率) 51か所(57%)

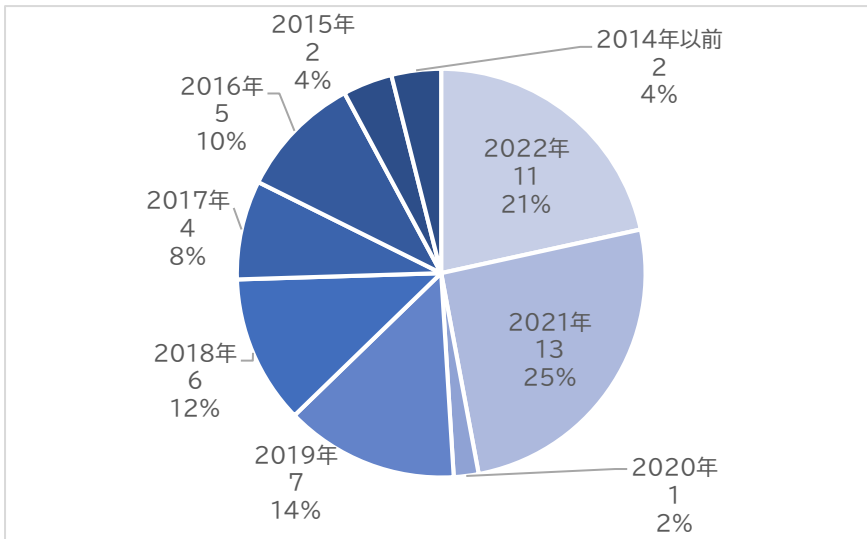
2 調査結果

(1) 支援の場の基本情報について

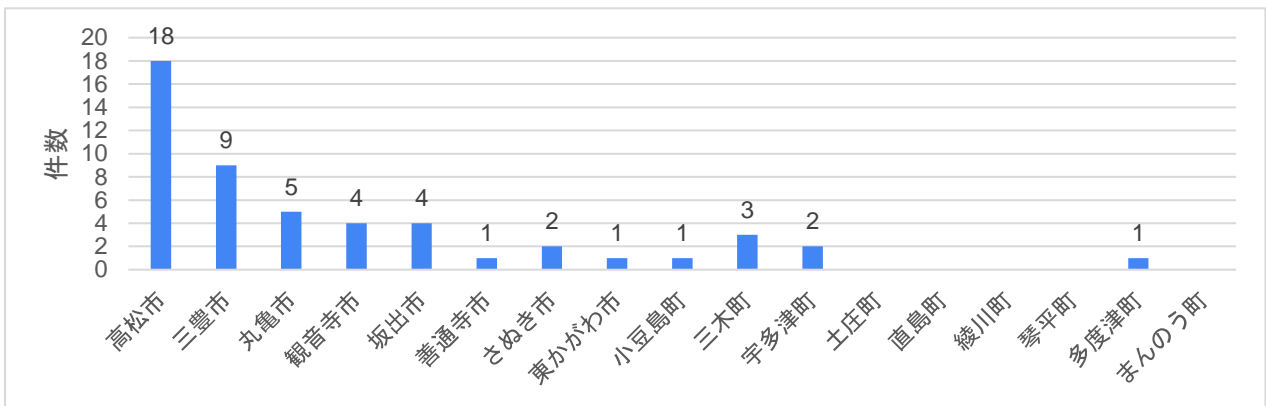
問1 運営主体をご回答ください。



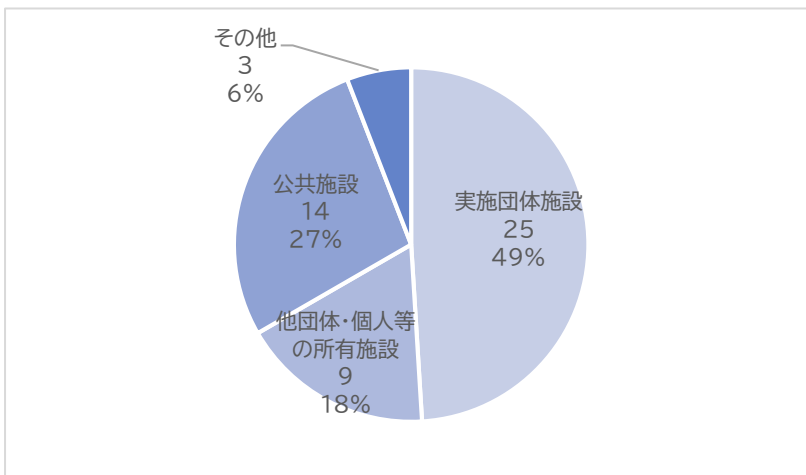
問2 支援の場の活動を開始した年はいつですか？



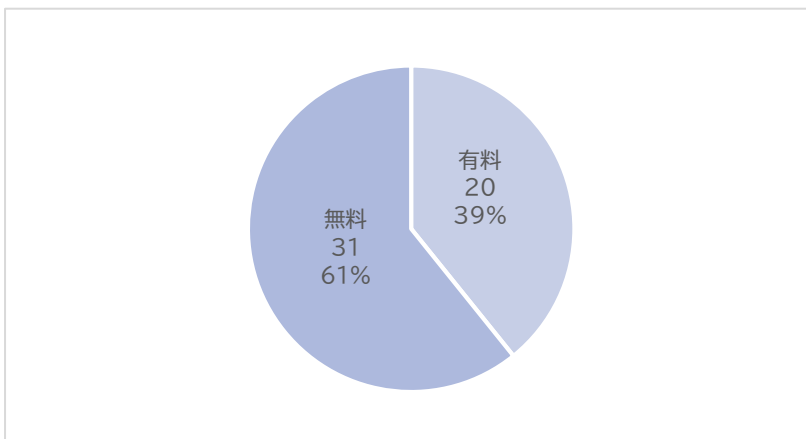
問3 支援の場の所在地はどこですか？(拠点がなく場合は、主な活動地域を1つ選択してください。)



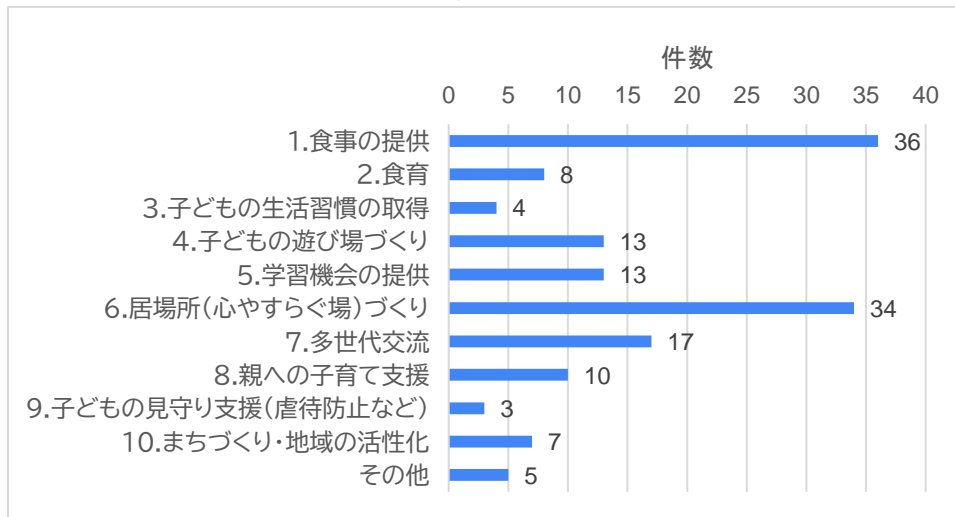
問4 開催場所はどこですか？



問5 開催場所は利用料がかかりますか？



問6 支援の場の活動の主たる目的を教えてください。(最大3つまでを選択)



問7 支援の場の活動の中で、喜びを感じることは何ですか？

「だれもが安心できる居場所になる」を達成させるための活動のひとつとしてこの事業を展開することとしたが、これまで障がい児・者をターゲットにしていたが根底にある“人・こども”を実感することができている。いかに抱えている困難さが多様化しているかを目の当たりにしています。関わる人が増えることで生きやすさを感じる人が少しずつ増え、私たちの活動を知ってもらえる機会の提供となっていることもヨロコビです。

継続して参加してくれてくること。参加している子どもたちが仲良く話をしたり、勉強したりしていること。長期休暇中の宿題を完成させようと頑張っていること。毎回繰り返し学習することでできなかったことができるようになっていくこと。(例:九九ができるようになった。勉強に集中できる時間が長くなった。自主的に勉強に取り組めるようになった。)

利用者の方が、こども食堂に関わることで、表情が明るくなったり、子どもたちが、挨拶できるようになったり、自分のことを話すようになったり変化を感じ取ることができたとき。(信頼関係が深まってきているなど感じたとき)、お弁当美味しかったと喜んで顔がやる側の励み、喜びになっている。

毎月のパントリーで会う方々が段々と自身の困りごとなどを話してくれるようになったこと。学習支援教室に来る子ども達が少し自信を付けてくれること。この活動をしていることで、他機関、地域の方々からの協力や連携が増え、法人の活動への理解が広まっていること

親子さんが笑顔で楽しんでいる事。幼稚園や保育園に行っても忘れずに夏休みや冬休み春休みなどに遊びに来てくれて、楽しんでくれる事。また、遊びに来ます。楽しかったです。と、声をかけてもらった時など。

第3の居場所として、会場で子ども同士が楽しそうに過ごしている姿や、家事から離れた場所で少しの時間でもゆったり親子で会話しながら過ごしている様子を見た時

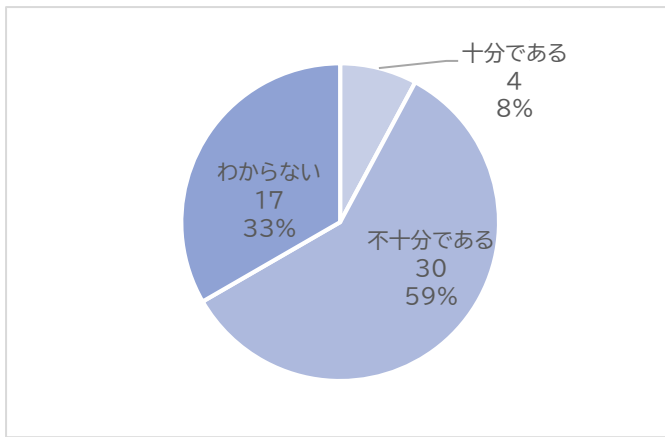
子供の成長と、保護者の悩みを聞いたりして、子育てが楽しくできている様子を感じる事。中学生の学習支援で、継続して参加して学習に意欲を持ってきていること

ボランティアさんや利用者の方と交流し、ありがとうと感謝の言葉をいただけること。集まる方々が交流し、人とのつながりが出来ていくこと

参加してくれた全ての人が、それぞれの良さを活かして動いてくれたり、くつろいで家族のように過ごしてくれていると実感する時

<p>コロナの影響で子どもたちはストレスを感じていますが、子ども食堂でみんなで食べることが心の栄養になっていると思います。</p>
<p>集う人が笑顔を見せたり、悩みを打ち明けてくれたりして、少し元気になり立ち上がる瞬間を目にした際にやりがいを感じます。</p>
<p>「あと何日でこども食堂だ。」や「他は行けないけどここだけは行きたい。」などと楽しみにしてくれている声を聞けること</p>
<p>利用者が主体的に生活ができていること。ぶつかった壁をのりこえた姿を見ることができたとき。成長を感じる時</p>
<p>笑顔で帰って頂けること。現在は出来ていないが、食べて遊んで楽しかった～と言ってもらえること</p>
<p>来てくださった時に喜んでもらえたり、お弁当の感想のラインをいただいたとき、嬉しく思います。</p>
<p>子供達とのコミュニケーションをとる事によって見られる子供達の笑顔と元気さに癒やされます。</p>
<p>子どもの成長を保護者と感じられる。保護者が子育ての中に喜びを感じられることを共有できる。</p>
<p>子どもたちが少しずつ協力し合い活動に取り組んで行ったり、仲良く遊んでいるとき</p>
<p>食事を残さず食べられ「美味しかった ごちそうさまでした」と言ってもらえる時</p>
<p>利用者さんが、喜ばれていたり元気になられたり、笑顔になられているとき</p>
<p>困難な状況にある親子が、支援の手を受け取って、満足してくれること</p>
<p>子どもたちの笑顔に出会った時。利用者さんからの喜びの声を戴いた時</p>
<p>多世代交流の場になれ、地域で子どもたちの成長を見守れることが嬉しい。</p>
<p>利用者が居場所に魅力を感じ、利用して頂き笑顔で喜んでくれる時</p>
<p>子どもときょうだい児、保護者、ボランティアが笑顔になったとき</p>
<p>利用者の方が自分のペースで参加されているのが感じられるとき</p>
<p>様々な関係者が関わり子どもたちへの支援の輪が広がること</p>
<p>参加者さんがここに来ることを楽しみにし、笑顔になること</p>
<p>美味しい食事をお腹いっぱい食べて喜んで帰るときです。</p>
<p>アウトドアを通して、子どもと大人が楽しく交流できる</p>
<p>子どもたちが楽しそうにワイワイと遊んでいる時</p>
<p>子どもや、保護者が支援を通じて心のゆとりが持てた時</p>
<p>子どもの学習している姿と余暇活動中の笑顔</p>
<p>子ども、大人が笑顔で多世代交流している時</p>
<p>継続利用での成長を目の当たりにするとき</p>
<p>ありがとー。楽しかった と、言われた時</p>
<p>お腹いっぱい食べてもらい笑顔が見られた時</p>
<p>お弁当を美味しかったと言われること</p>
<p>ご家庭の方々が喜んでくださること</p>
<p>人と人との繋がりが強くなること</p>
<p>元気な挨拶 ありがとうの言葉</p>
<p>子どもの笑顔・信頼関係</p>
<p>次世代の育成</p>

問8 貴団体が活動している市町において、支援の場の数は十分だと思いますか？



上記のように感じる理由を教えてください。

(十分である)

- ▶ 色々な方の協力関係があるから。
- ▶ 支援の場以外に、児童館等の子どもが通える場所があるから。

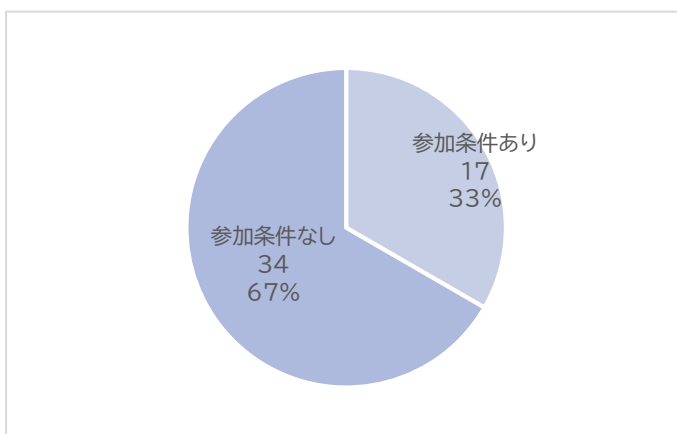
(不十分である)

- ▶ すべての小学校区に1か所ある方がよい。
- ▶ まだまだ認知度が低いと感じる。
- ▶ 地域の中で活動が理解されていない。
- ▶ 子どもが自分で行くことができる範囲に、居場所が必要だと感じる。
- ▶ 実施回数が足りていない。(もっと必要としている人がいる。)
- ▶ 本当に支援を必要としている人に届いていないのではないかと感じる。
- ▶ 地域によって偏りがある。

(わからない)

- ▶ 必要としている方の情報を得ることができないため、十分に足りているのかわからない。
- ▶ 支援の場はあるが、その情報が必要としている方へ伝わっているか不明。
- ▶ 他の支援の場のことがわからないため。
- ▶ 地域差があるため。
- ▶ 数だけの問題ではなく、ニーズに合っていないと感じることがある。

問9 支援の場への参加条件はありますか？



問10 問9で「参加条件あり」と回答した方のみ回答してください。

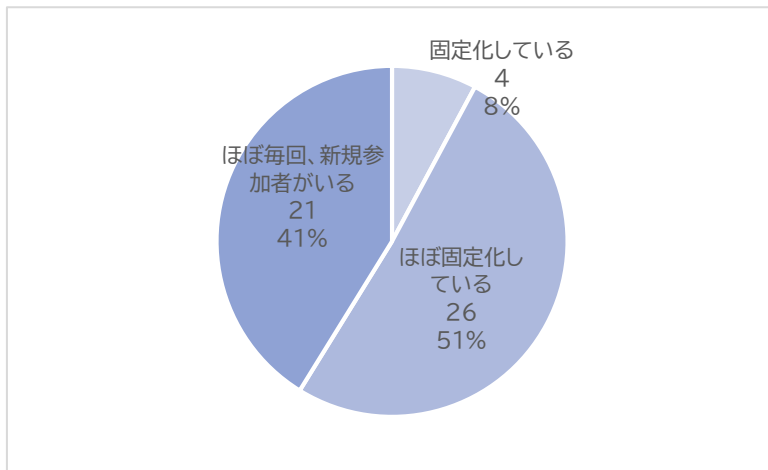
参加条件を教えてください。(複数回答可)



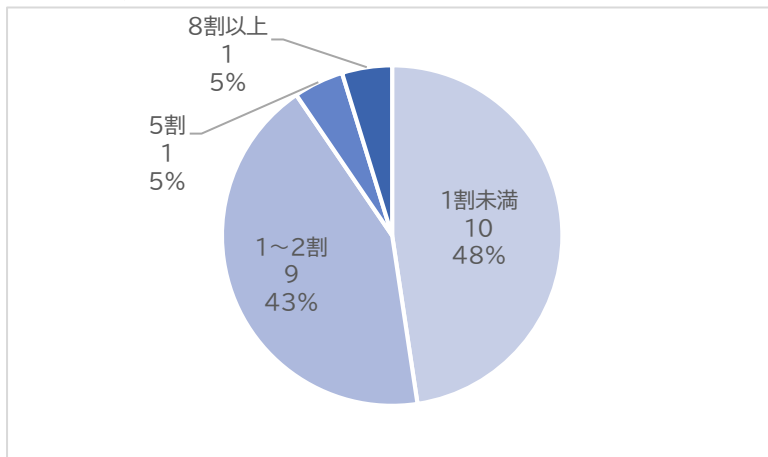
【その他】

- ・病気を抱える子どもと家族
- ・生活困窮家庭 等

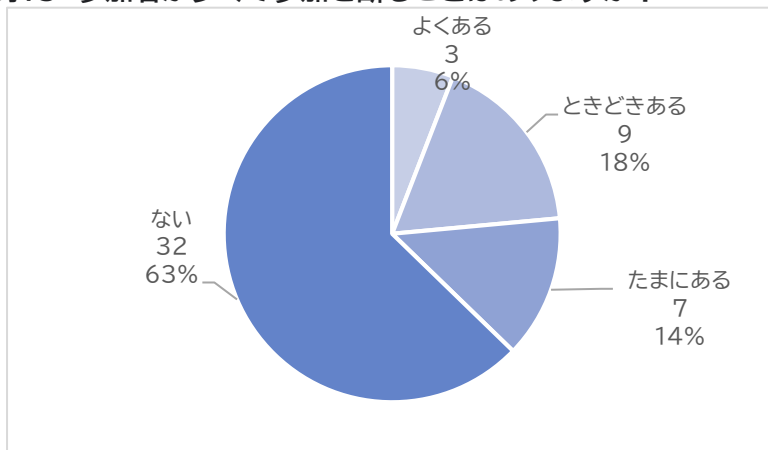
問11 参加者の状況を教えてください。



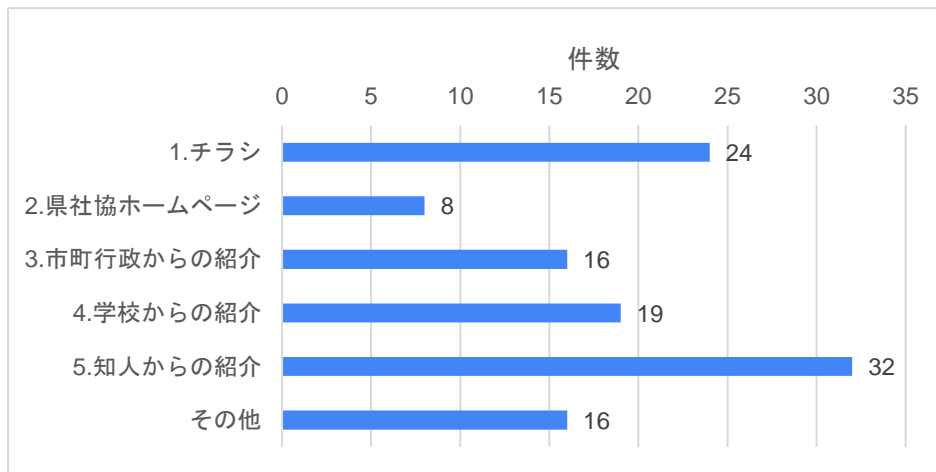
問12 問11で「ほぼ毎回、新規の参加者がいる。」と回答した方のみ回答してください。
新規参加者の割合は何割程度ですか？



問13 参加者が多くて参加を断ることはありますか？



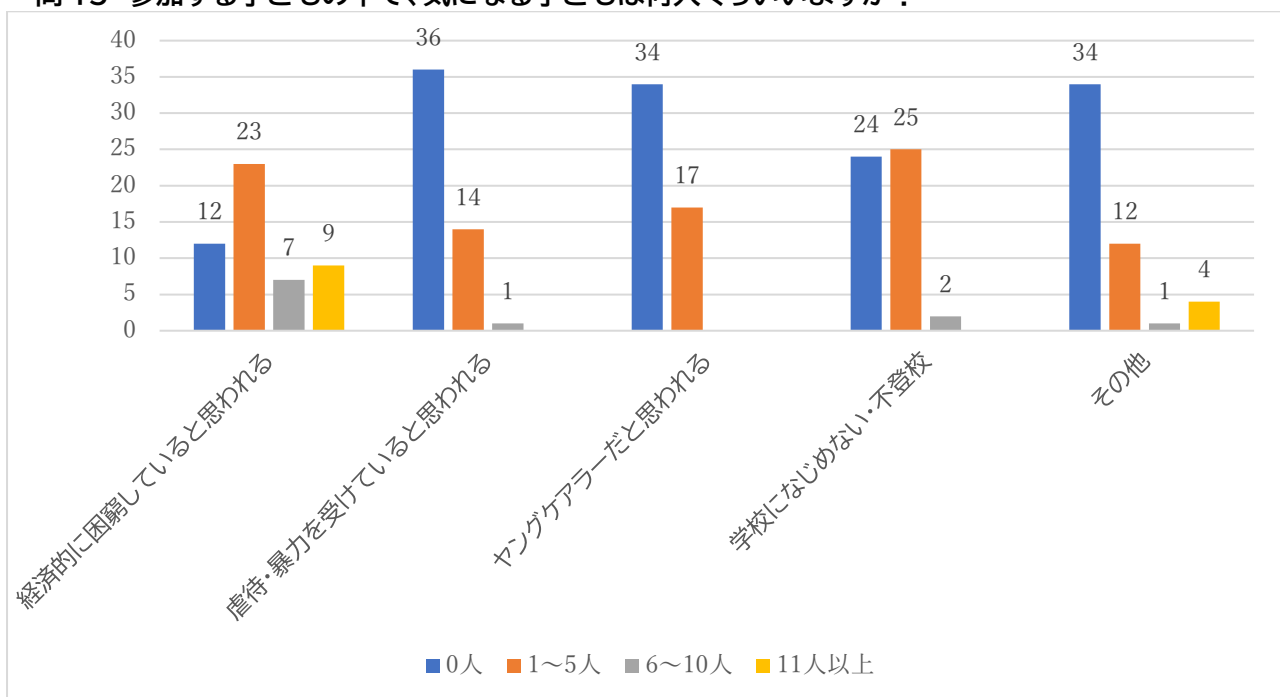
問 14 参加するきっかけは、何が多と思いますか？(複数回答可)



【その他】

- ・SNS
- ・病院からの紹介
- ・自団体のホームページ
- ・口コミ
- ・保護者の支援施設
- ・看板を見て
- ・他団体からの紹介 等

問 15 参加する子どもの中で、気になる子どもは何人くらいいますか？



【その他】

- ・障害のある子ども
- ・発達に特性のある子ども(多動、学習障害等)
- ・外国ルーツの子ども
- ・学校の勉強についていけない子ども
- ・親自身が地域から孤立したり、友人がいない。
- ・親が子育てに疲れている。
- ・保護者のサポートが必要な子ども 等

問 16 気になる子どもに気づいた場合は、どのような対応を行っていますか？

学習支援で、集団の対応で気になる子どもには、個別対応の機会を設けています。パントリーでは SNS を通じて話しを深めたり、その結果対面での相談の時間や、他のサービス、支援者とのつなぎ込みをしたりしています。

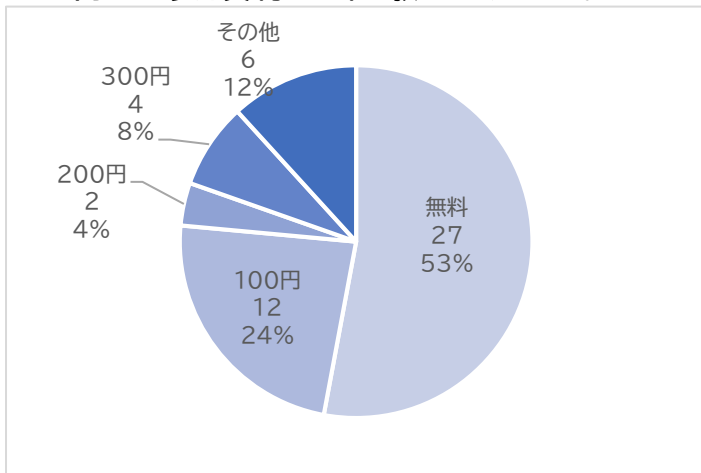
子どもが単独で来る場合と保護者が付き添っている場合などがあるので一概に言えないが、基本的には継続利用するような働きかけと、属性が分かる場合は SSW 等にたずねる。

1. 丁寧に話を聞く 2. キーパーソンと思われる人に相談する(SSWなど) 3. 他のNPOが実施している行事(フードバンクや子ども向けイベント)を案内する。

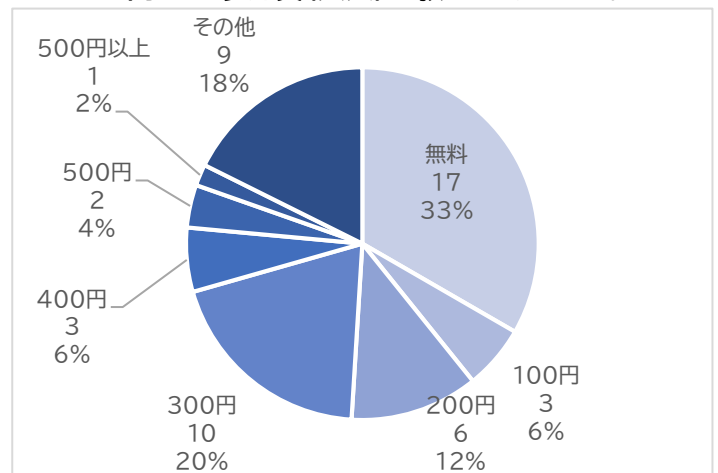
スタッフが様子を見たり、声掛けできれば声掛け、親御さんと一緒に時は親御さんとたわいのない話から、相談したそうであれば相談に乗ったり、行政機関につなぐ。

食事や遊びの中で話を聞いたり、スクールカウンセラーや臨床心理士、養護教諭などのプロに繋ぐこともある。
本人の話を丁寧に聞く。SSW や行政に相談する。大学生(有償ボランティア)とのコミュニケーションを促す。
個人的に連絡を取り、様子をうかがったり子ども食堂開催時に保護者の方からお話をうかがったりしている。
子どもの行動を認める。お母さんも居づらくならないよう受け入れる。何回も遊びに来られるよう心がける。
子ども(親)の話をよく聞き、必要に応じて支援機関や制度、弊団体の伴走支援を紹介する。
直接声をかけて居場所を紹介する。ご家族に食品提供などを提案して関係構築を試みる。
気づいた場合は行政担当課に報告予定
チームでの打ち合わせ+該当する地域のSSW や役場職員と連携をとっている。
スクールカウンセラー、市社会福祉協議会、地域の民生委員へつなぐ。
元気がない子どもには優しく話しかけて、学校での出来事などを聞いてみる。
次の開催予定について案内し、子ども食堂と言う居場所を知ってもらう。
スタッフ間で共有し、どのように対応したらよいか検討しあっている。
食事の提供や、食品や衣料品の提供。個別に子どもに話を聞く。
市の子ども関係課や児童相談所と連絡をとる。
親御さんと話しやすい雰囲気をつくるようにしている。
毎回参加を促す。参加希望の場合多くとも断らない。
話し相手になったり、保護者への支援を行っている。
声をかけ、話をしたそうであれば、聞いている。
保護者に声掛けをしてみる。学校に相談している。
保健師などに連絡するなど他機関と連携し見守る。
寄り添い、声掛けをし、話してくれるのを待つ。
継続的に関係構築、声かけ、アウトリーチ。

問 17 参加費(子ども)を教えてください。



問 18 参加費(大人)を教えてください。



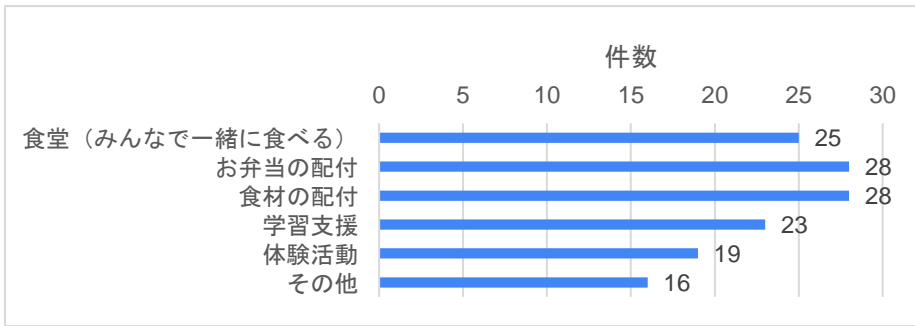
【その他】・活動内容やメニューによって異なる。

・年齢によって異なる。

・年会費制

・任意

問 19 現在(R4年12月16日時点)の活動内容についてご回答ください。(該当するものをすべて選択)



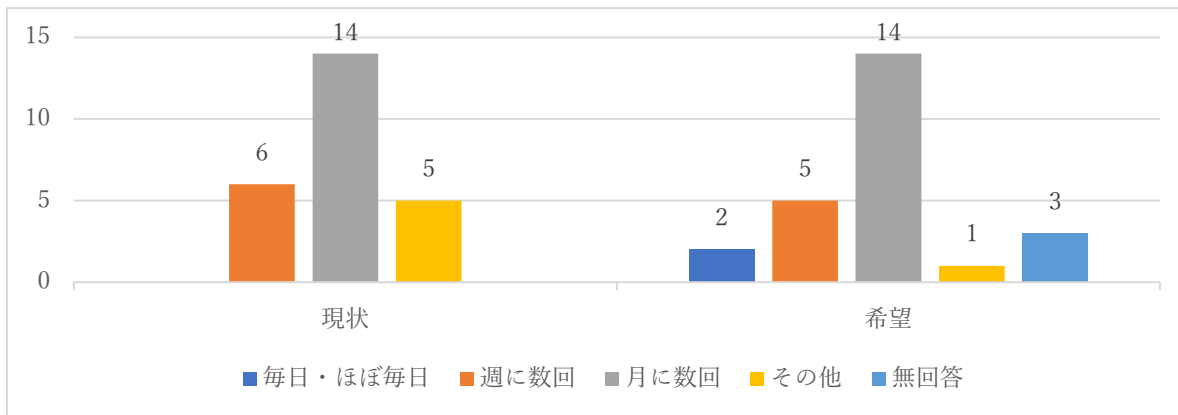
【その他】

- ・季節のイベント ・あそび場
- ・相談支援 ・休止中 ・居場所づくり
- ・総菜販売 ・おもちゃライブラリー
- ・地域子育て支援拠点 ・対話
- ・お弁当配付だが、会場でも飲食可 等

(2) 食堂(みんなで一緒に食べる。)について

問 20 どのくらいの頻度で開催していますか？

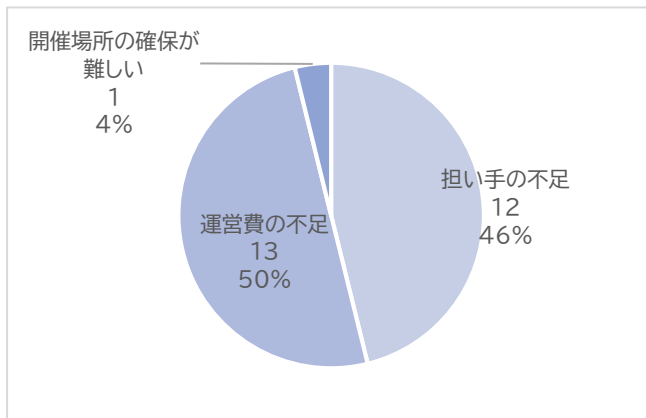
また、希望する開催頻度はどのくらいですか？



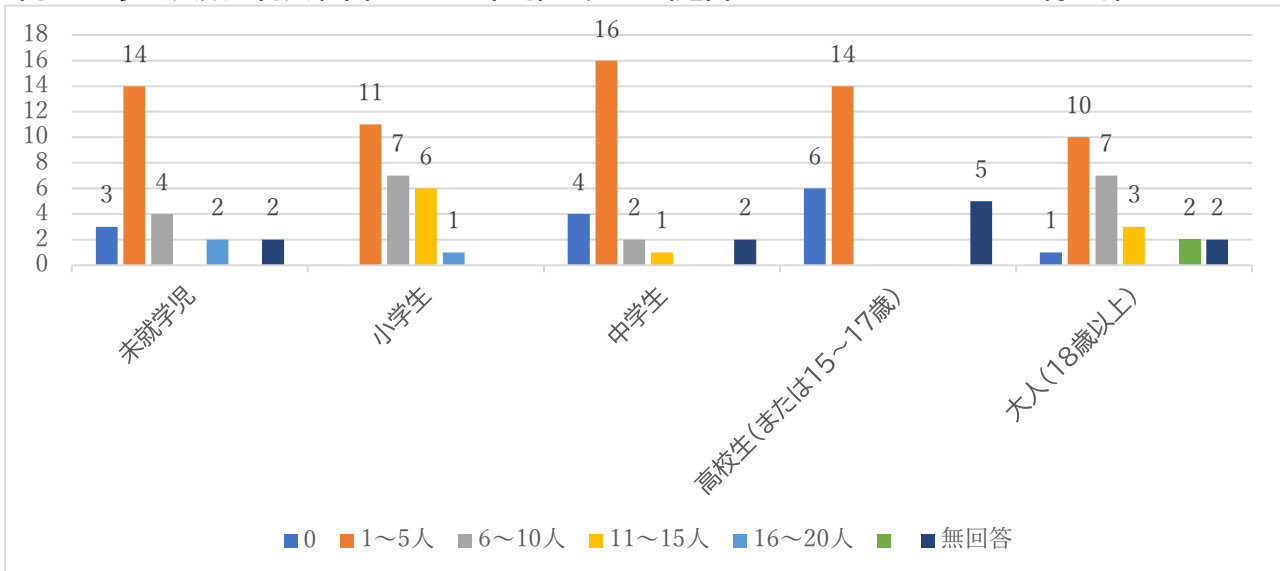
【その他】

- ・行事のときに開催
- ・2か月に1回
- ・学校の長期休暇期間
- ・週4日 等

問 21 希望する頻度で開催が難しい理由は何ですか？(複数回答可)



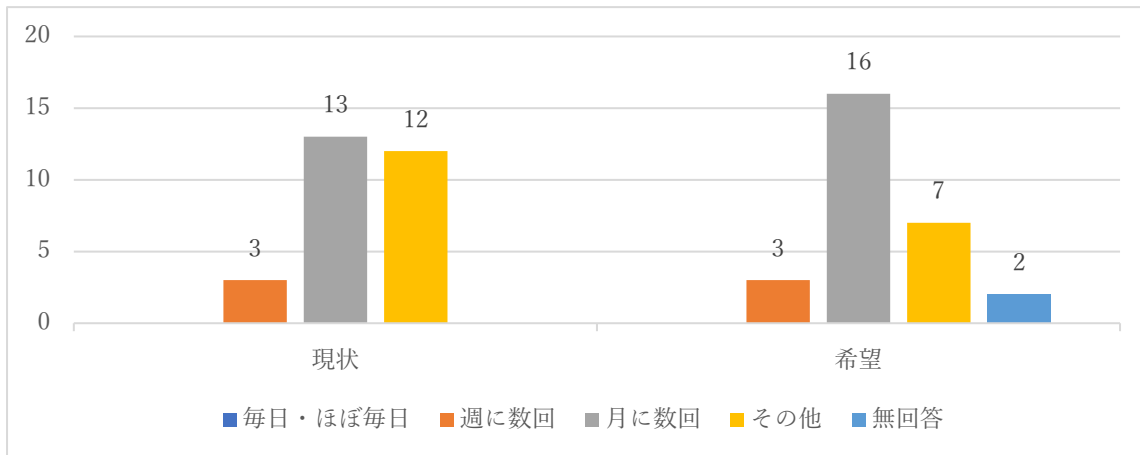
問 22 参加人数は何人(1回あたりの平均)ですか？(運営スタッフやボランティアは除く。)



(3) お弁当の配布について

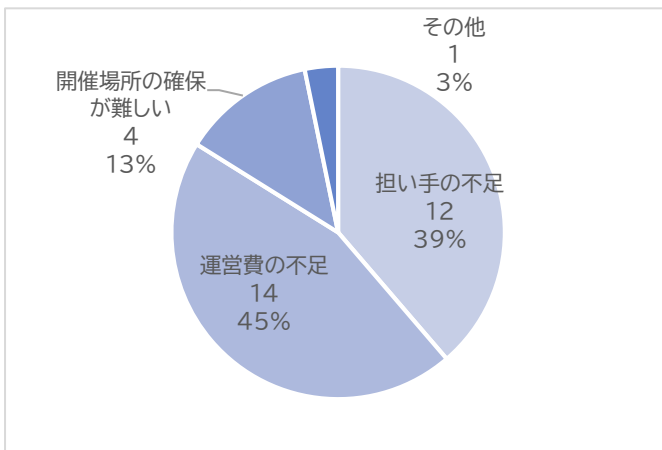
問 23 どのくらいの頻度で実施していますか？

また、希望する実施頻度はどのくらいですか？



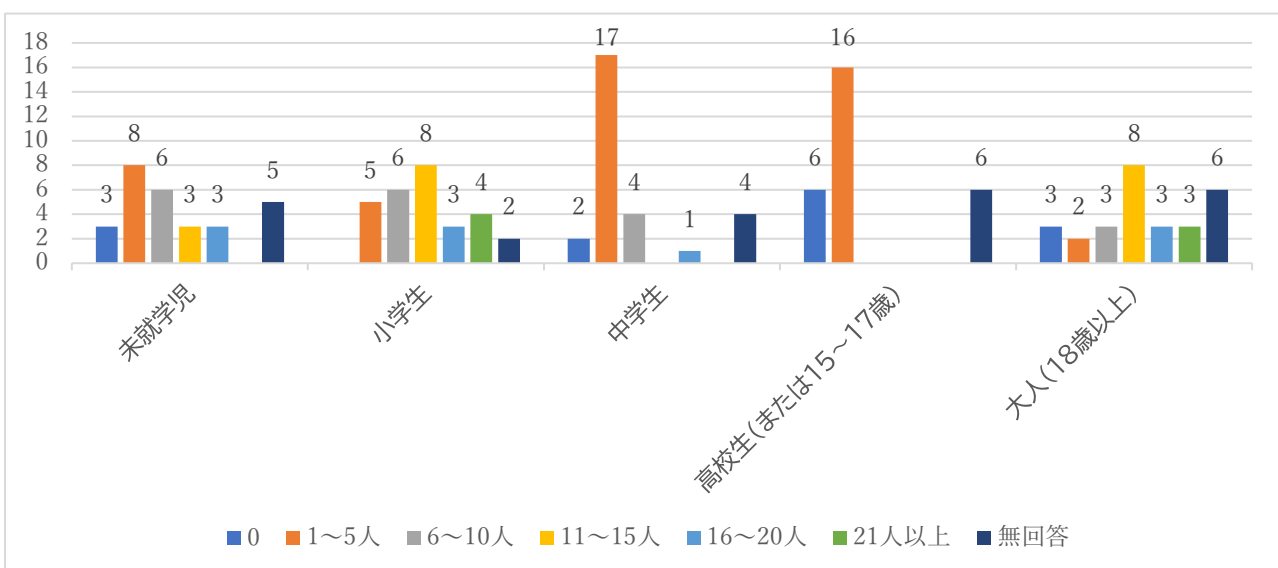
- 【その他】
 (現状)
 ・月1回
 ・給食がない期間
 ・夏休みのみ実施
 ・寄付があった際に実施
 (希望)
 ・週1回
 ・月に2回 等

問 24 希望する頻度で実施が難しい理由は何ですか？(複数回答可)



- 【その他】
 ・制度に基づく活動ではないため、継続的な予算がなく、先の見通しがたたない。

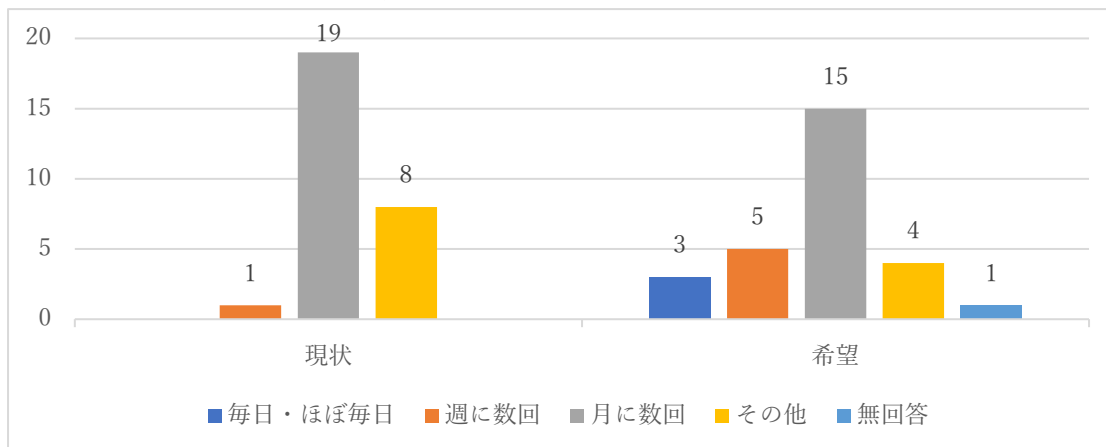
問 25 配布人数は何人(1回あたりの平均)ですか？(運営スタッフやボランティアは除く。)



(4) 食材の配布について

問 26 どのくらいの頻度で実施していますか？

また、希望する実施頻度はどのくらいですか？



【その他】

(現状)

・子ども食堂の材料として使用する以上に食材がある場合のみ。

・寄付があった際に実施

・相談を受けた時

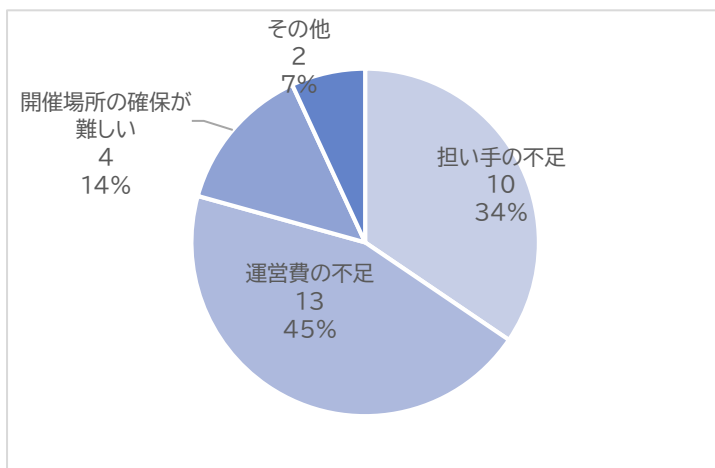
・訪問時に渡す。

(希望)

・定期的に行いたい。

等

問 27 希望する頻度で実施が難しい理由は何ですか？(複数回答可)

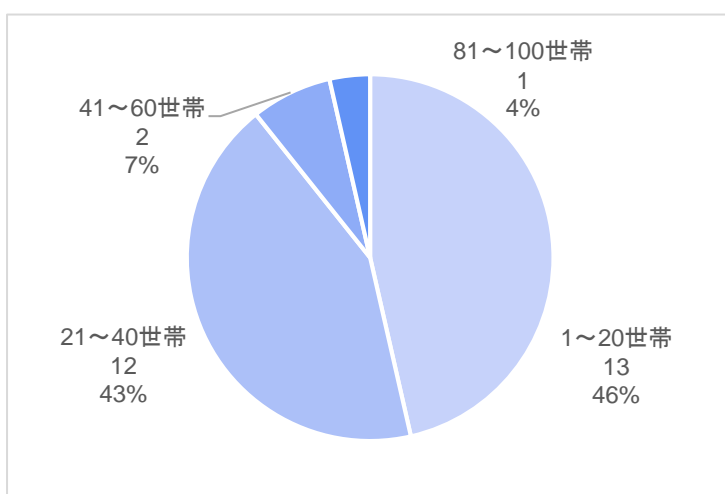


【その他】

・食品の確保が難しい。

・食材の保管場所がない。

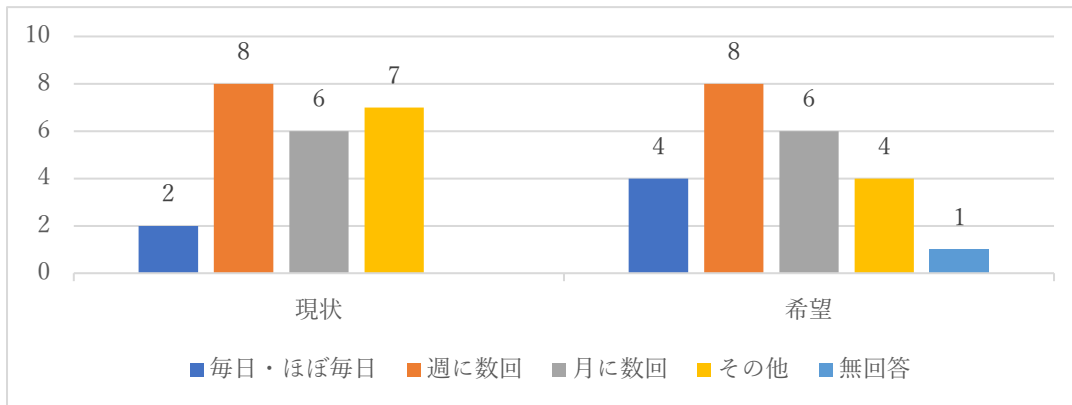
問 28 おおよそ何世帯に配布していますか？(1回あたりの平均)



(5) 学習支援について

問 29 どのくらいの頻度で開催していますか？

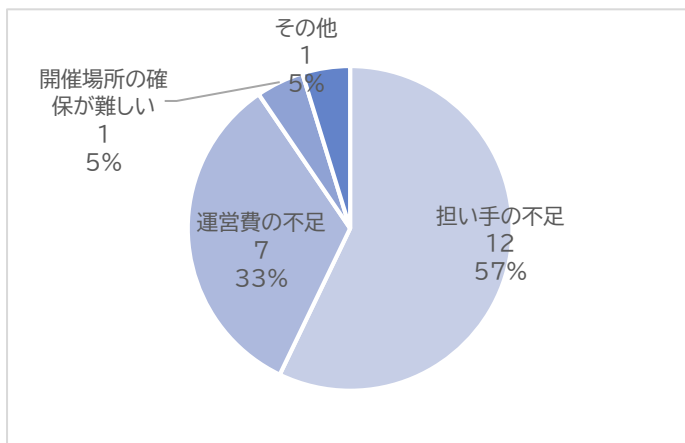
また、希望する開催頻度はどのくらいですか？



【その他】

- (現状)
- ・希望があったときのみ
 - ・年に数回
 - ・月1回+学校の長期休業期間
 - ・学校の長期休業期間に各2~3日
- (希望)
- ・もう少し個別対応できる時間を増やしたい。
 - ・もう少し回数を増やしたい。
 - ・固定化して行いたい。 等

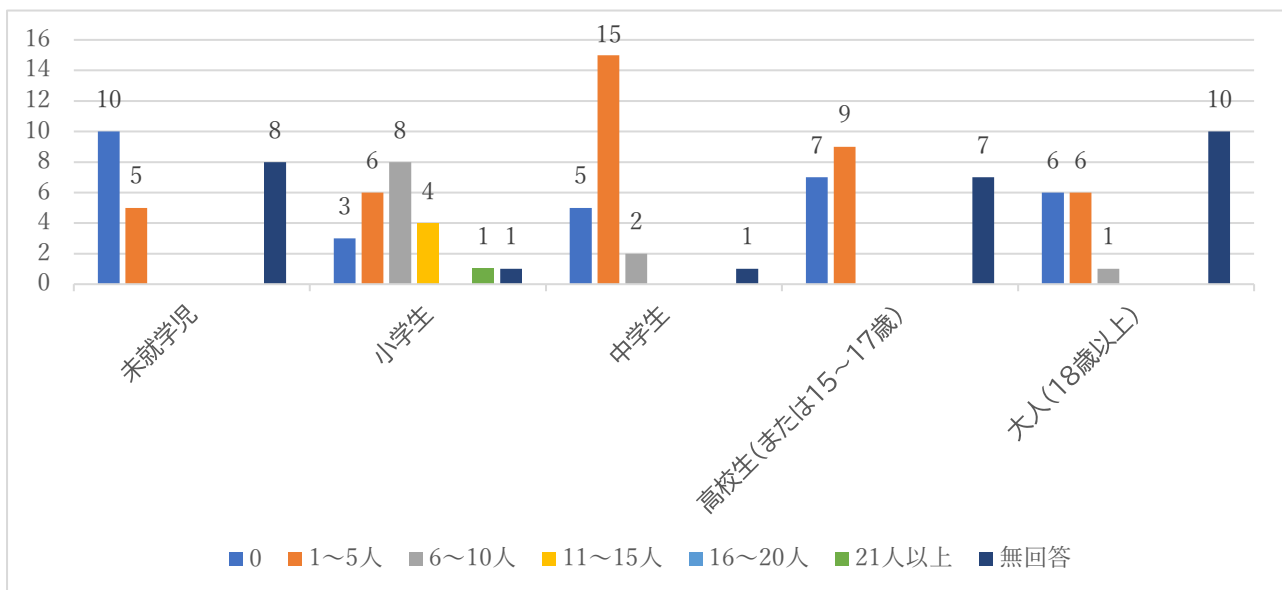
問 30 希望する頻度で開催が難しい理由は何ですか？(複数回答可)



【その他】

親が仕事で、会場まで送迎できないため。

問 31 参加人数は何人(1回あたりの平均)ですか？(運営スタッフやボランティアは除く。)

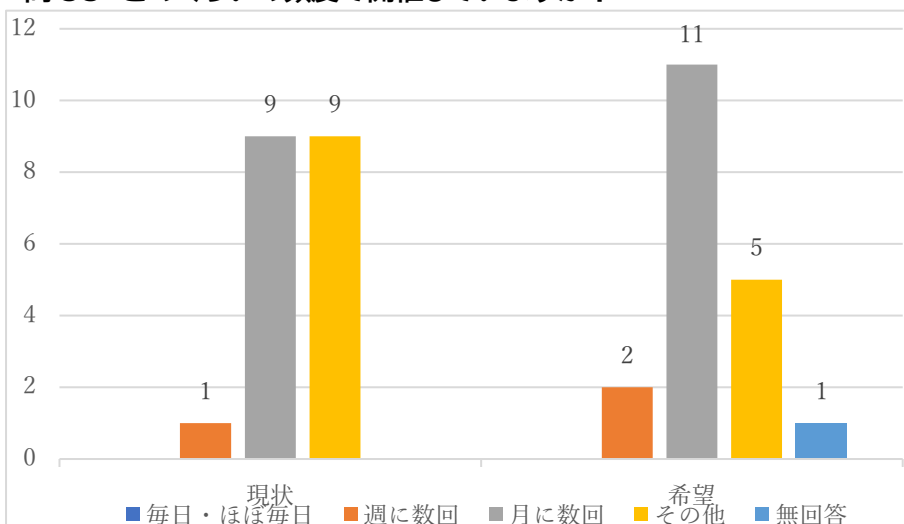


(6) 体験活動について

問 32 どのような活動をしていますか？

フードレスキュー隊(賞味期限間近の食材をいただき、地域の方と料理を作って食べる取り組み。1回 20~30名参加・SDGsの取り組み・地域の方とのふれあい・イベント・おやつ配布)
季節の行事、遠足、遊ぼう会、地域とのコラボイベント、県外団体とのコラボイベント、成人式へ送り出す支援 等
大学生団体との遊び、子どもの料理教室、手芸、ハロウィンやクリスマスのイベント
あそびから子どもたちの学びや成長につなげる、子どもから大人まで参加出来る活動
学習塾スタッフによるスライム作り、高校生スタッフによるタイルアートなど
季節ごとのコンサートや行事、バランスボール、手芸、SDGsの実践、防災
調理、農園の野菜の収穫、昔遊びや工作、季節の行事など
農業体験、ワークショップ、相談活動など
リモートで牧場体験、リモートでお口プロジェクト
課外活動(スポーツ)キャンプ・バスでお出かけ
舞台鑑賞、自然体験、工作、料理、表現ワーク
料理教室、裁縫教室、工作、芋ほり、遠足
餅つき等時期に合うイベント開催
農業、フラダンス、うどん打ち
いもほり・おにぎり作り
食育中心の料理教室
制作・遊び・食育等の体験
おにぎり作りの食育活動
工作 絵本のよみ聞かせ
アート体験、調理体験
絵画・音楽・海水浴
農業体験や自然体験
防災や季節行事
バーベキュー

問 33 どのくらいの頻度で開催していますか？



【その他】

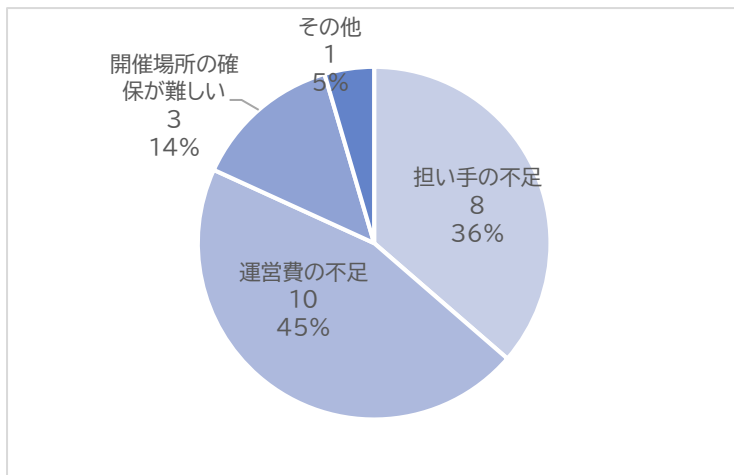
(現状)

- ・月1回+年に数回
- ・学校の長期休業中
- ・開催可能な条件が整えば開催している
- ・季節ごとに実施

(希望)

- ・固定化して行いたい。 等

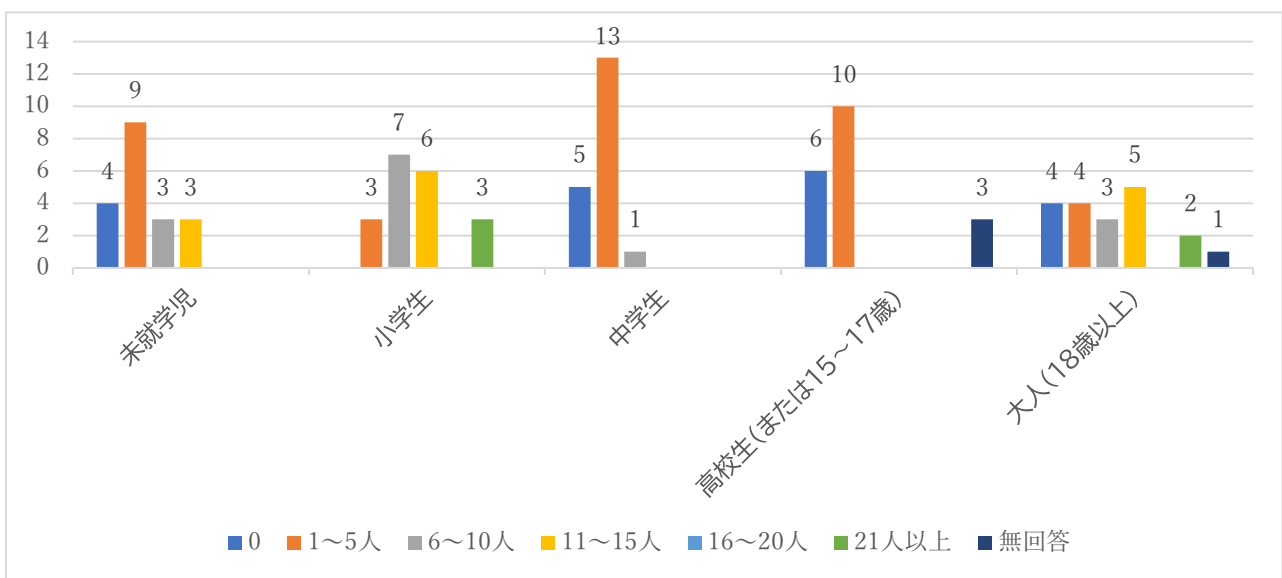
問 34 希望する頻度で開催が難しい理由は何ですか？(複数回答可)



【その他】

新型コロナウイルス感染症の流行

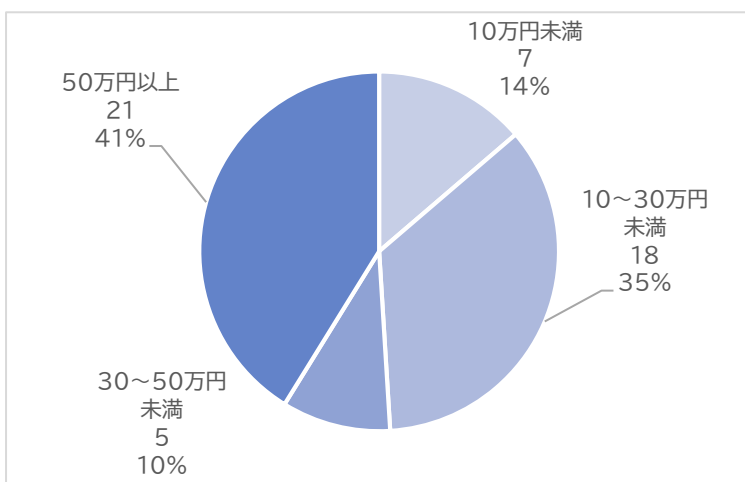
問 35 参加人数は何人(1回あたりの平均)ですか？(運営スタッフやボランティアは除く。)



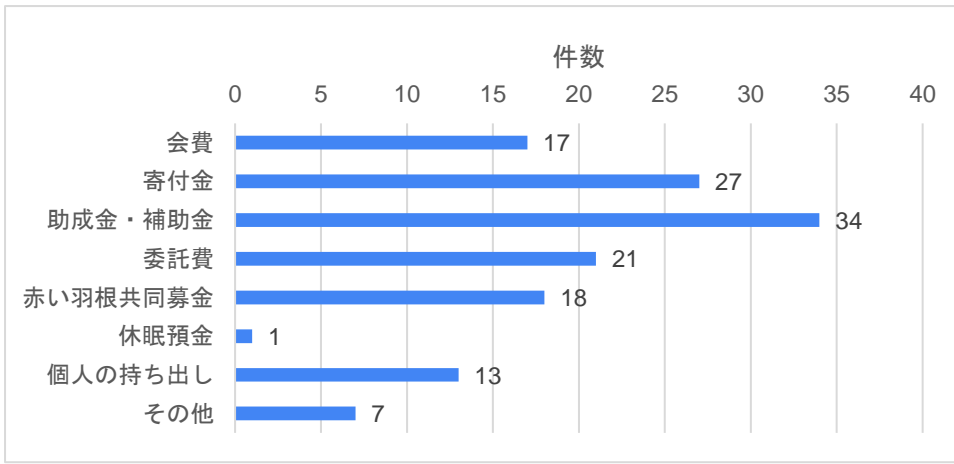
(7) 支援の場の運営について

問 36 今年度(令和4年4月~令和5年3月)の運営費(予算)はどの程度ですか？

年度途中から活動を開始した場合は、1年間と想定した場合の金額をご回答ください。

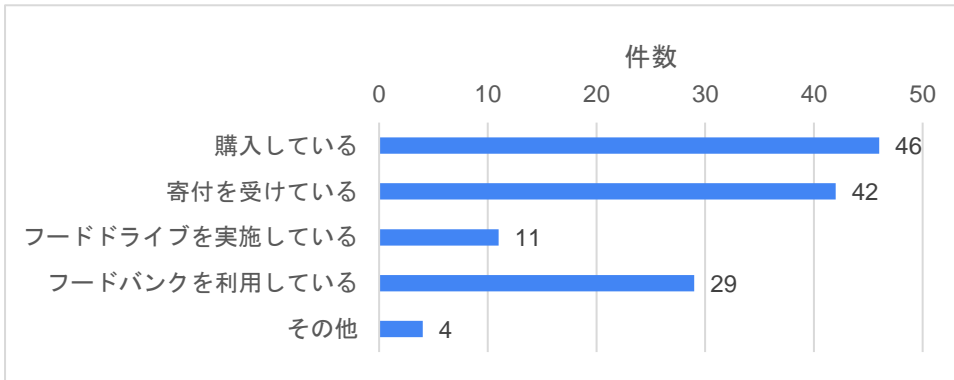


問 37 今年度(令和4年4月～令和5年3月)の活動資金は何ですか？(複数回答可)



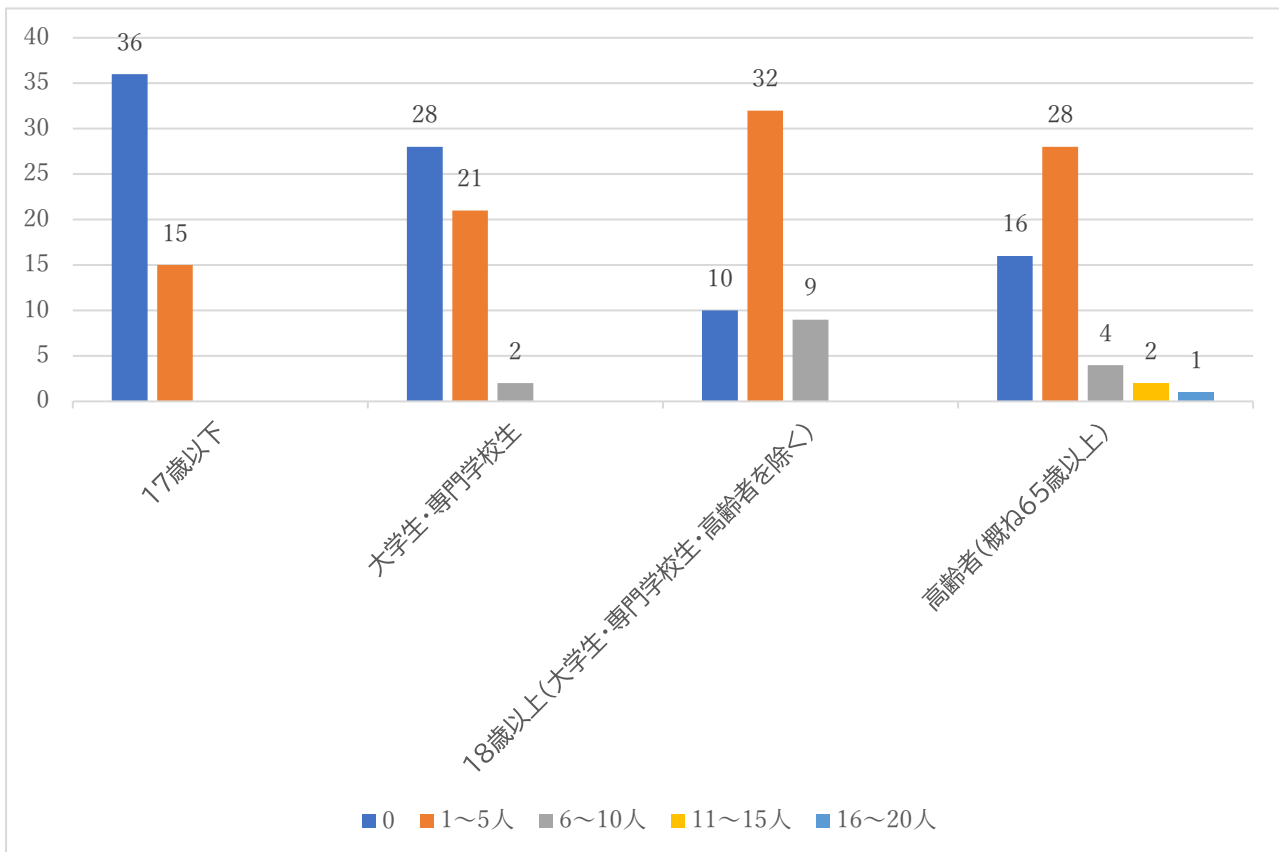
- 【その他】
- ・運営母体から持ち出し
 - ・食事等の売上
 - ・バザーの売上
 - ・共同開催者の運営費

問 38 活動で使用する食材(食事の材料、パントリーの配布物、おやつ等)はどのように入手していますか？(複数回答可)

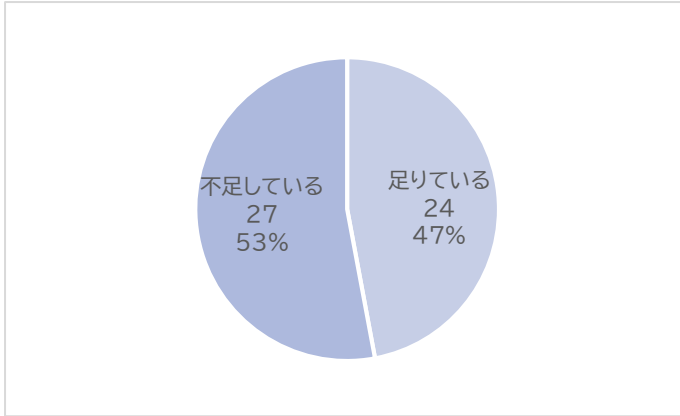


- 【その他】
- ・農園で作っている。
 - ・スタッフの寄付
 - ・社会福祉協議会からの提供
 - ・支援団体から物資を調達
 - ・自団体にフードバンクを実施している

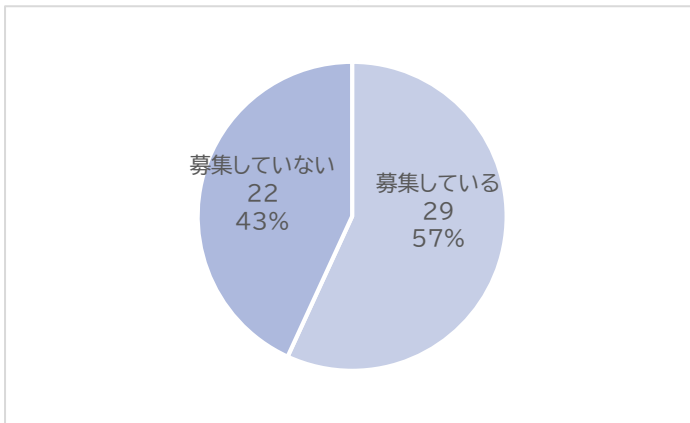
問 39 1回開催するにあたり、スタッフ(ボランティアを含む。)のおおよその人数をご回答ください。



問 40 スタッフ(ボランティア)の数は足りていますか？



問 41 現在、ボランティアを募集していますか？

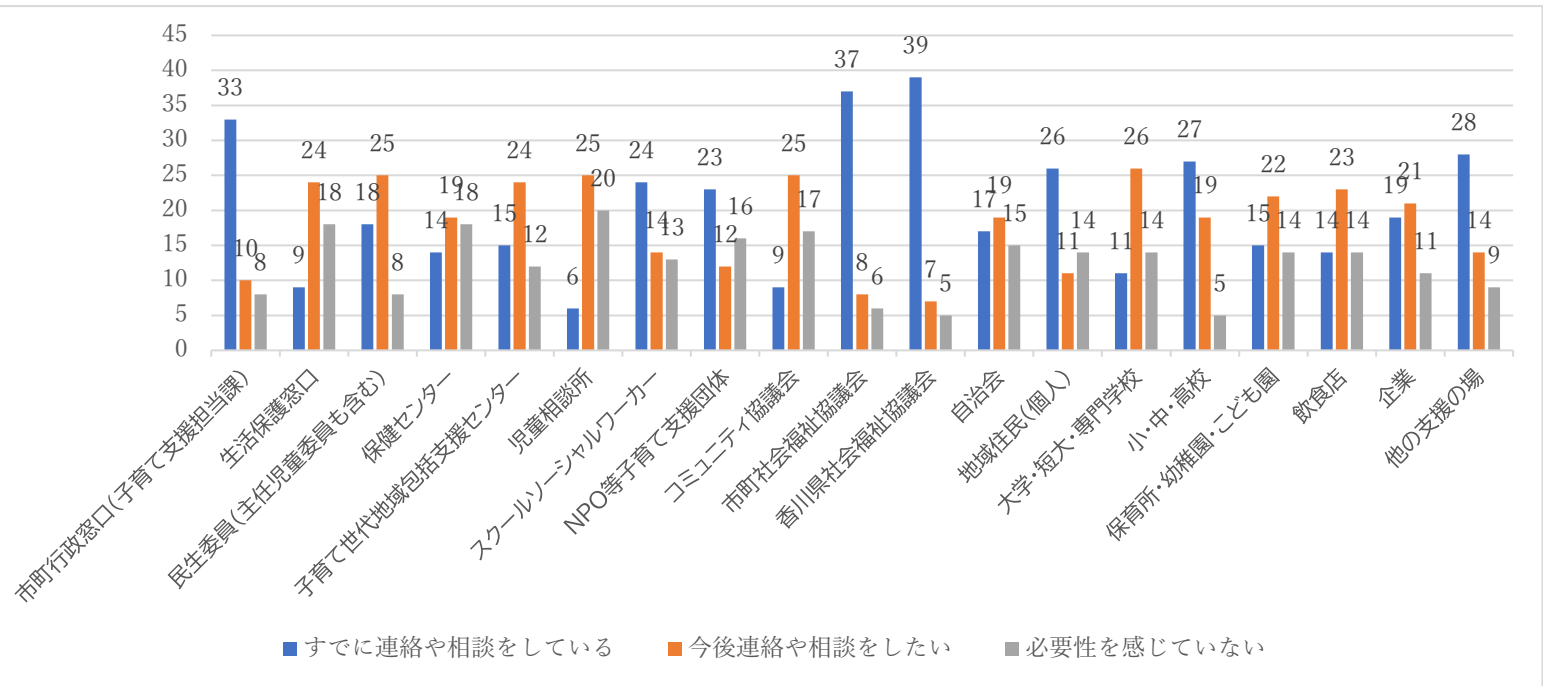


問 42 問 41 で『ボランティアを募集している』と回答した方のみご回答ください。
どのようなボランティアを募集していますか？

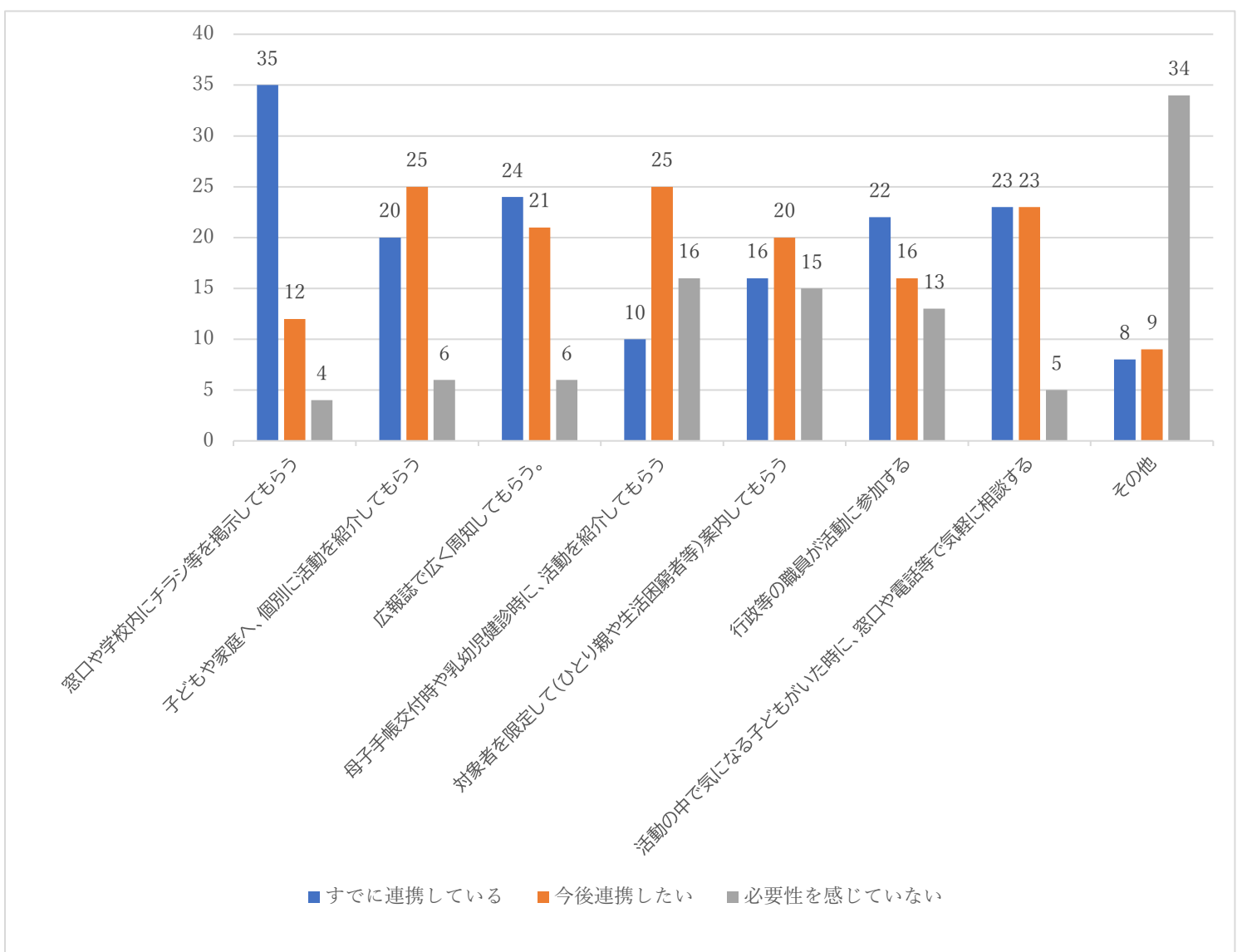
調理
フードパントリーの手伝い
学習支援での勉強を教える方
子どもの見守り
一緒に活動をしてくれる人(運営者)
子どもや保護者と一緒にすごしたり、工作などのお手伝いを一緒にしてくれる人
プリント作り
フードドライブやフードバンクの受け取り
清掃などの施設管理
大学生
食料の集荷
子供たちの話し相手
ボランティア活動を楽しんでくれる人
イベントを企画運営
希望者は受け入れています。
平日の午後に活動できる人
会計事務
レシピ作り

(8) 他機関との連携・課題について

問 43 現在、連絡や相談をしている機関・団体はありますか？
また、今後連絡や相談をしたい機関・団体はどこですか？



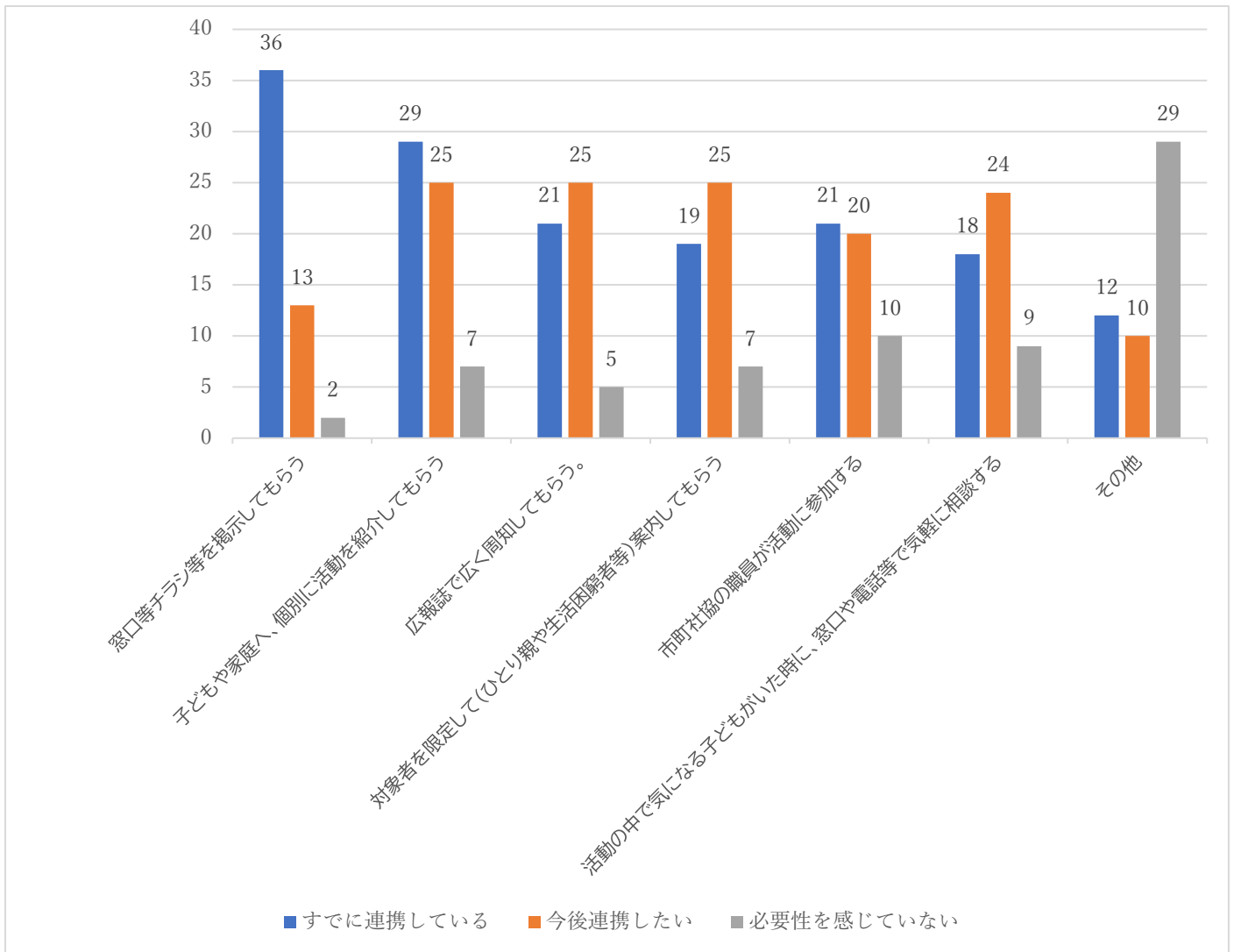
問 44 市町行政、教育委員会、学校とはどのように連携していますか？
また、どのように連携したいですか？



【その他】

- ・役場やSSW等から物資やアウトリーチの必要性の相談があった場合は、互いに協力しながら早急に対応するようにして連携している。生保や児童相談所の必要性がない理由としては、先に役場に連絡し、つなぎをおこなっているため、団体としての対応は現在は必要がない。
- ・要程児童対策地域協議会への参加や、不登校児童生徒についての個別支援会議の開催をお願いしたい。
- ・どこに何を相談するかは相談者本人が決めること。相談する気にさせる関係性を日々作っている。
- ・支援している各現場の人が集まっのケース会のようなことがもう少しできると良いと思います。
- ・入学時や学校行事とかにこども食堂のことを説明する機会をいただきたい。
- ・生活保護者など本当に困っている方に配りたいが配布できていない。
- ・校長先生、教頭先生、担任の先生が活動に参加して下さることがある。
- ・地域の子どもたちを知るために、学校校門前での挨拶活動
- ・子育て支援課と密に連携をとっている。
- ・必要に応じて情報共有

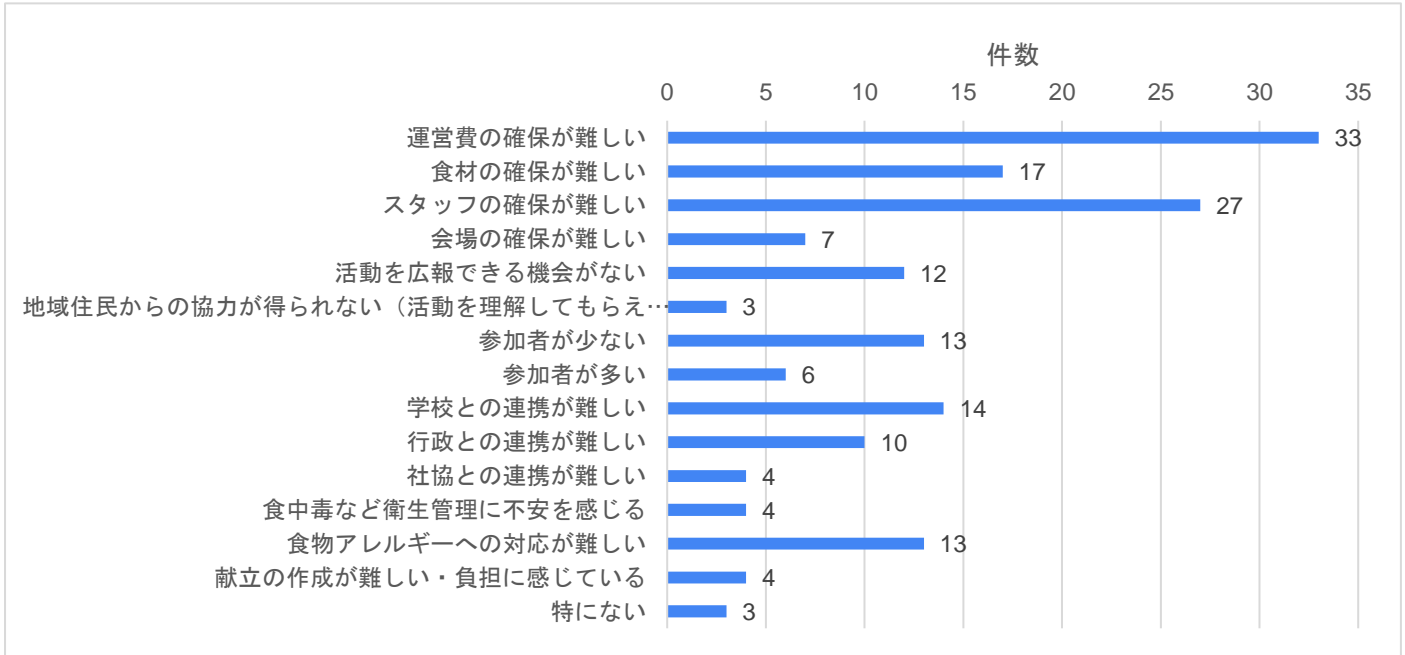
問 45 市町社会福祉協議会とはどのように連携していますか？
また、どのように連携したいですか？



【その他】

- ・地区社会福祉協議会、福祉ネットワーク会議が、地域の課題に取り組んでいる NPO や任意団体、個人、施設などのネットワーク化をはかり、地域福祉の要になるような存在になったらと思います。

問 46 支援の場の運営にあたり、感じている課題を教えてください。(複数回答可)



問 47 問46での回答の他、支援の場の運営にあたり、困っていることや、課題に感じていることがあればご記載ください。

人件費の資金調達です。
 子どもの貧困を支援する団体が貧困で不安定です。安心してもらえる活動としての行政からの支援が欠かせませんが厳しい状況です。そのため、助成金応募と報告に追い立てられて、現場と事務作業とで、寿命が縮まってるなあと感じています。
 子どもたちには長期の支援が必要不可欠な現状ですが、いつも、資金の心配をしながらの支援活動には限界があります。活動を継続できるかどうかについて「来年の4月からのことは分からない」そのことを、いつ、利用者さんに伝える？ですが、やめられないと思っています。例えばポツポツとでも、相談が後を絶たないので。

任意団体で、スタッフは本業をもちながら運営しており専任職員がいない。そのため行政から求められる内容、事務量が多いので、負担が増えている。今やっている人がいなくなるとやれないのではないかと不安がある。また、人数が増えているので、食事提供が限界に近づいている。最低でも小学校区単位にこども食堂があれば良い。そのためには、地域の社会福祉協議会、福祉ネットワークが、校区を拠点にどういった地域福祉を実現していくのかイニシアチブをとってもらえたらやりやすくなる。

運営費として、食材や賃料費等については経費でおける。しかし、普段の事業収入がない当団体では、スタッフの賃金が助成金では出せないようになっているため、助成金申請の書類や会計等の事務および運営スタッフが雇えない。長期にわたり子どもと関わるためには、職員の安定した確保が必要である。事業側の運営費の中に、人件費を助成金等から支払いができるような取り組みをお願いしたい。

ドンピシャ子どもを対象に…という活動ではないですが、いつもいろいろな方々にお力添えをいただき感謝しています。年齢や属性で切り分けられないからこそ一緒に活動させていただいているのだと感じていますし、見落としがちな子ども、若者にも地域の中でつながりを持って生活して欲しいと感じています。

公共の機関を利用していないため、家賃・光熱費・水道代が必要となっています。そのため利益を考えての活動になっています。例えばクリスマスプレゼントにしてもいろいろな所からの支援が無ければできません。もっと多くの子供達の援助になればと思っています。フードロス事業をもっと行う事により、少しでも家庭の負担を無くしてあげたいです。

食品ロスを出している企業などに対して、行政や社協が食品提供を呼び掛けてほしい。団体が個別ばらばらにお願いに行くよりも効果があると思う。県社協が流してくれる食品提供の情報は大変ありがたいので、それがさらに規模拡大していただければうれしい。

毎回を申込制にしておらず、配布日の利用者数が増加している。足りない時には別物を用意するようにしているが、制限を設けた方がいいのか、制限を設けるにしてもどんな設け方があるのか他団体の方法を参考にしたいと思っています。

<p>他機関の方々にもご理解とご協力をしっかりいただけているかと思っています。あとは必要な方に今後も周知を続けることと、継続していくための仕組みを作って行けたらと思っています。</p>
<p>物価高騰により、食材やおやつが不足しています。ご寄付や助成金で運営していますが、全国的に支援の場が増えたため応募が多く、寄付や助成金の獲得が難しいです。</p>
<p>結構な労力と精神力が必要。支援対象のご家庭にルールや守っていただきたいことが、なかなか伝わらない。(車の走行などで、近所からクレームが来る。)</p>
<p>運営費が補助金頼みなので、来年度の見通しが立たない。補助金の申請に多くの時間を使う。スタッフがボランティアなので、研修参加等が難しい。</p>
<p>まだまだ認知度が低く、もっと多くの子どもたちに子ども食堂を知ってもらいたい。また、このような居場所を地域全体で支援していきたい。</p>
<p>うちではありませんが、専業主婦など食事に困っていない人が子供食堂を利用していることが多いので本当の生活困窮者に届けたい。</p>
<p>問題が深刻化、複雑化していて、到底 1 人ではさばききれません。もう少し行政の愛のある支援を期待します。</p>
<p>行政や社協等が子供の食生活等の調査を行い、地域の子供たちの食の確保が十分であるのか考えていきたい。</p>
<p>活発な地域づくりを目指して活動をしているが、地域コミュニティの積極的な協力を得るには課題がある。</p>
<p>テイクアウト需要がいつ沈下するのか？社会がいつまでコロナ禍を続けるのか？</p>
<p>活動の広報、周知。多機関、企業など異業種の方にも知ってほしい。</p>
<p>本当に困っている子どもたちが来てくれないようです。</p>
<p>活動報告、収支報告等の事務作業が負担である。</p>
<p>行政からの活動への理解が欲しい。</p>
<p>個別の要望に応えることが難しい。</p>
<p>必要な人に届く支援</p>